

平成29年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	探求的な学習活動を通して科学的リテラシーと国際性を育成する教育課程を編成する。 生徒の主体的、協働的な学びへの授業改善を組織的に進める 特別活動等への生徒の主体的な取組みを推進する。	SSH及び理数教育推進校として主体的な探究活動を組織的に推進し、理数及び国際性への関心を高める。 7か7の充実とPrincipiaまでの教育課程編成を行う。 「主体的・対話的で深い学び」への授業実践に取り組み、論理的思考力を育成する。	主体的な課題設定・探究活動のための指導方法を研究・実践する。 グローバル教育を推進するとともに、科学コンテストへの出場機会を増やす。 学力向上ワーキングを組織し、授業改善研修会を年5回以上開催する。 授業の質・量の向上のため、教科会を活性化する。	SSH評価により生徒の探究活動への関心、主体的取組みが向上したか。 グローバル教育の機会が増えたか。科学コンテストへの出場機会が増えたか。 学力向上ワーキングは機能したか。授業改善研修会を年5回以上開催したか。 授業改善のための教科会回数は増えたか。					
2 生徒指導・ 支援	個々の生徒に応じた支援体制の充実を図る。 部活動を通して生徒の生きる力を育成するとともに、学習・進路活動との調和を図る。	生徒の情報共有及び生徒への支援を組織的かつ迅速に行う。 部活動と学習とのバランスをとれるように自己マネジメント力を育成する。	定期調査の集計、対応を迅速かつ組織的に行う。 日常的に情報共有を迅速かつ組織的に行い教育相談フローを効果的に活用する。 部活動と学習時間バランスを把握する。	定期調査は迅速かつ組織的にフィードバックできたか。 教育相談フローのコア会議等を活用できたか。 アンケート調査結果で部活動と学習のバランスが取れたか。					
3 進路指導・ 支援	生徒が社会との関連の中で、自らのキャリア発達を主体的に考える指導の充実を図る。 生徒の第一志望実現に向けた進路指導体制の充実を図る。	進路について早期から考えさせる指導を行う。 学力向上と進路指導のリンクを図る。 土曜講習、各セミナーを効果的に設定し、受講者を増やす。 模擬テスト、志望、学習指導のリンクを図る。	社会人講話(未来ナビ)の対象を学年全体とし学校行事に位置づける。 教科スタンダードを作成し、進路実現につなげる。 講座目標を志望系統別など明確化し、受講者を増やす。講習後の学力伸長を検証する。 模擬テスト、志望を全職員で共有し、教科会で指導方法を検討する。	未来ナビの生徒の満足度は70%以上であったか。 教科スタンダードと進路実現の関連を検証する。 目標を明確にした講座の設定数、受講者数、学力伸長(模擬試験等)の検証。 分析、志望の共有回数、検討のための教科会回数。					

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域等との連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。 地域の教育力を活用するとともに、地域に貢献する教育活動を充実させる。	生徒の地域活動への参加を活性化する。 SSHの活動を通じて、科学やグローバルへの関心を伝える活動を行う。	地域活動のフィールド、参加人数を増やす。生徒の企画を促す。 SSH委員会(生徒)を発足し、普及活動の企画・運営を行う。	地域活動への参加人数、機会は増えたか。生徒企画はできたか。 地域への普及活動の企画・運営はできたか。					
5	学校管理 学校運営	すべての職員が教育環境の変化に柔軟かつ迅速に対応し、積極的に課題に取り組む組織づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境の美化、整備を進める。 ICT教育環境の整備を推進する。 校内外の情報共有を活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の校内美化活動、環境整備を活性化する。 サイエンスルームの活用、整備を推進する。 HP等による情報発信を活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室、部室等の美化活動、環境整備は進んだか。 サイエンスルームの活用は目的に沿ったものであったか。 HP更新回数は増えたか。 					